



# あさひ

## 12月号

令和4年11月30日  
横浜市立旭小学校



ASAHI\_E.S.\_YOKOHAMA

「思いをもつ力」 「やり抜く力」 「関わる力」

【WEB】 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/asahi/>

【Instagram】 [asahi\\_e.s.\\_yokohama](https://www.instagram.com/asahi_e.s._yokohama)

## RESTART

“121<sup>st</sup> SCHOOL YEAR”

### 戻りつつある、コロナ禍以前の教育活動 ～「あさひまつり」でのあさひっ子の表情から～

校長 益子 照正

11月26日(土)、今年度の「あさひまつり」を開催しました。このイベントの最大の特徴は、学校の教職員(T)が企画・運営するのではなく、「PTAあさひまつり委員会」を中心とした保護者(P)の方々の善意とアイデア、そして行動力で実現している点です。あさひっ子にとっても有意義なこのイベントとなりました。

歴史を紐解いてみると、実に平成3年(1991年)10月12日に創立90周年記念事業のひとつとして「こどもまつり」が開催されたことが始まりだとされています。資料によれば、事業のねらいとして「PTA行事として、会員が参加・協力し、地域との交流も深めながら、全員で楽しめる行事」と明記されています。それから今日に至る過程で、表記の変更や時期の変更など、その内容を時代に即したものに変えながらも、その時々々の職員、PTA、地域の方々によってその本質が守られてきたことに校長として敬意を表します。

しかし、この「あさひまつり」、大きな試練を迎えることとなりました。コロナ禍です。未曾有の感染症に混乱した一昨年、おそらく史上初めての「中止」を余儀なくされました。この年を最後に卒業していく当時の6年生、ご家族、関係者の皆様は、さぞ残念な思いに駆られたことでしょう。昨年は、開催そのものを慎重に検討した結果、なんとか屋外中心の内容で再開させることができましたが、保護者、地域の方々をお呼びできない縮小開催にせざるを得なかったことから、委員を務められた方々には心残りもあったのではないかと想像します。

しかし、その大過を経て「あさひまつり」は、持続可能な形を模索し、新たな形で再生することができました。これまでの土曜日開催での「有志参加」から、「全あさひっ子が参加」できるよう、授業の一環としての行事に位置付け、土曜登校日として設定したのです。その変更に伴って、実行委員を務めるPTA委員の皆様には大きな難題を提示することになりました。全校児童が参加するということは、密集を避けたい感染症対策とは正反対の意味合いをもつからです。しかし、本校PTAの皆さんのアイデアとバイタリティーは素晴らしく、何事もなかったかのように一大イベントを実現してくださいました。この会が、本来の目的である「会員が参加・協力し、全員で楽しめる行事」であったことを、参加できなかったすべての方にご報告いたします。紙面ではその様子を十分にお伝えできませんので、本校のWEBページ、または公式Instagramにてご覧いただければ幸いです(Instagram閲覧には、表題右のQRコードをご活用ください)。

その中で、次年度への大きな課題も見つかりました。目的の一つである「地域の方々との交流」を実現できなかったことです。コロナ禍も3年目を迎え、学校教育においても以前のような活動が戻りつつあります。今月中旬にすべてを無事に終了できた各学年の宿泊体験学習、学年全員でつくり出す音を鑑賞し合う音楽会はすでに概ね形を取り戻し、保護者が制限なく参加できる授業参観や卒業式の実現に向けても前向きに検討を重ねています。その流れの中で、翌年開催の「あさひまつり」では、今年の忘れ物を取り戻せるように検討を重ねていきます。あさひっ子が見せてくれた今日の表情をより豊かなものにできるように努めていきます。今後ともご理解、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。